

CASBEE京都-新築(2015年版)
リーガル京都聖護院計画

■使用評価マニュアル CASBEE京都-新築(2015年版)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2015 (v.1.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音				4.0	0.15	3.5	1.00	3.6
1.2 遮音				3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2.1 開口部遮音性能			T-2以上	5.0	0.50	4.1	0.50	
1.2.2 界壁遮音性能			Dr-50	5.0	1.00	5.0	0.30	
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			Lr-45	-	-	4.0	0.30	
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	4.0	0.20	
1.3 吸音				-	-	3.0	0.20	
2 温熱環境								
2.1 室温制御				2.6	0.35	1.7	1.00	1.9
2.1.1 室温				2.2	0.50	1.0	0.63	
2.1.2 外皮性能				3.0	0.63	-	-	
2.1.3 ゾーン別制御性				1.0	0.38	1.0	1.00	
2.2 湿度制御				-	-	-	-	
2.3 空調方式				3.0	0.20	-	-	
2.3.1 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.38	
3 光・視環境								
3.1 日光利用				2.5	0.25	2.9	1.00	2.8
3.1.1 屋光率	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.43	1.9	0.50	
3.1.2 方位別開口				-	-	2.0	0.50	
3.1.3 屋光利用設備	●自然	B(推奨内容)		3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				-	-	4.0	0.50	
3.2.1 屋光制御	●自然	B(推奨内容)	カーテン、庇を組み合わせて制御	-	-	4.0	1.00	
3.3 照度				1.0	0.21	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.36	-	-	
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				3.6	0.25	3.1	1.00	3.2
4.1.1 化学汚染物質			F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している	4.0	0.60	4.0	0.63	
4.1.2 アスベスト対策				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				-	-	-	-	
4.2.1 換気量				3.0	0.40	1.6	0.38	
4.2.2 自然換気性能	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.2.3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理				-	-	-	-	
4.3.1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	
4.3.2 喫煙の制御				-	-	-	-	
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				-	0.30	-	-	2.9
1.1.1 広さ・収納性				2.4	0.40	3.2	1.00	3.0
1.1.2 高度情報通信設備対応			各戸に100Mbitクラスのブロードバンド利用環境が整備されている	3.0	0.40	4.0	0.60	
1.1.3 バリアフリー計画	●大切	D(独自基準)		-	-	4.0	1.00	
1.2 心理性・快適性				3.0	1.00	-	-	
1.2.1 広さ感・景観	●とも	C(独自加点)		1.0	0.30	2.0	0.40	
1.2.2 リフレッシュスペース				-	-	3.0	0.50	
1.2.3 内装計画	●自然	D(独自基準)		-	-	-	-	
1.3 維持管理				1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3.1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.30	-	-	
1.3.2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
1.3.3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				2.8	0.30	-	-	2.8
2.1.1 耐震性				3.0	0.50	-	-	
2.1.2 免震・制振性能				3.0	0.80	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2.2.1 躯体材料の耐用年数	●大切	A(全国版準用)		2.9	0.30	-	-	
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-	
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-	
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔				2.0	0.10	-	-	
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔			主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。	5.0	0.20	-	-	
				2.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性					2.6	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり					-	-	2.6	0.50	
1	階高のゆとり				-	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 0.93	4.7	0.50	-	-	4.7
集合住宅以外の評価(3a.3b)					1.0	-	-	-	
集合住宅の評価(3c)				LED照明設備の設置	4.7	1.00	-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					-	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	-	-	-	
集合住宅の評価					3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				節水コマなどに加えて、省水型機器などを用いている。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.1	0.60	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.50	-	-	
3 冷媒					3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮				ライフサイクルCO2排出率 = 82%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮					2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減					3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制					2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1 騒音					3.0	1.00	-	-	
2 振動					-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制					-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				「光害対策ガイドライン」の一部を満たし、広告物照明を行っていない	4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる